エディトリアル

川崎市立多摩病院救急災害医療センター 医長　野村 悠

学校で生じた急病やケガを応急処置で済ませるか，受診を勧めるかは養護教諭が対応し，決定している．この判断過程に学校医や地域の医療機関が関わる機会は少ないが，学校保健委員会やPTA活動などを通じて，養護教諭や学校教職員，保護者に対して応急処置の指導などを求められる機会はある．また，養護教諭養成課程の学生実習を請けている病院もあるが，非医療系学生である彼らに伝えるべき医学的知識や経験させるべき症例の範囲には迷うことが多い．

学校では健診結果や基礎疾患に基づいた『学校生活管理指導表』が作成され，学校生活における運動制限や給食の献立作成などにも役立っている．一方，学校内における心肺停止やアナフィラキシーに対してAEDやエピペン®の使用は有効であるが，現場の教職員がどの程度扱えるのかは定かではない．

そこで本特集では，学校で生じる緊急性の高い疾病や外傷に対して，養護教諭をはじめとした学校教職員に伝えておきたい応急処置や，知っておいてほしい医学的知識についてまとめることとした．

特集

鈴木健介，横田裕行論文では，学校現場において発生した緊急性の高い疾病や外傷に対応する際の養護教諭の役割について，養護教諭養成課程に携わっておられる教員の立場から，総論的な考察や提言をいただいた．

甘利香織論文では，突然の心停止への基本的な対応をまとめていただいた．心停止では，何よりも良質な胸骨圧迫による心臓マッサージが重要であることを強調していただくとともに，蘇生法教育についても述べていただいた．

宮本朋幸論文では呼吸困難を扱っていただいた．呼吸器疾患は小児心停止の主な原因ともなり緊急性が高い．非医療従事者が疾患を鑑別する必要はないが，呼吸困難の評価とエピペン®について大変分かりやすくまとめていただいたので，ぜひ現場の教員へ提供していただきたい．

賀藤均論文は失神と意識障害についてまとめていただいた．朝礼中の失神も致死性不整脈の失神もあり緊急度の判断が難しい．けいれん発作や低血糖などの意識障害は基礎疾患の把握が重要である．原因が多岐にわたる症候であるが重要点をコンパクトに整理していただいた．

室野井智博論文では重症外傷に対する基本対処をご紹介いただいた．ここでの対象は局所的な「ケガ」ではなく重要臓器に外力が及んだ可能性のある「外傷」である．聞きなれない言葉かもしれないがJPTEC（ジェイピーテック）という外傷診療標準化教育コースが存在する．指導内容を絞った非医療従事者向けコースが開発されているため，興味ある方にはぜひ受講をお勧めしたい．

今回の特集のゴールは，読者が身近の学校教職員に対して「緊急で行うべき応急処置が行えるように指導できること」と「緊急性の高い疾病や外傷について知っておいてほしい内容を教育できること」である．

本特集の原稿が，非医療従事者である養護教諭や学校教職員に向けた教育本であるかのように，読者に教育素材として利用していただければ幸いである．